

# 1 ラウリル硫酸ナトリウム

## 2 確認試験の項を次のように改める。

### 3 確認試験

- 4 (1) 本品につき、赤外吸収スペクトル測定法 (2.25) の臭  
5 化カリウム錠剤法により試験を行い、本品のスペクトルと本  
6 品の参照スペクトルを比較するとき、両者のスペクトルは同  
7 一波数のところに同様の強度の吸収を認める。
- 8 (2) 本品2.5 gを白金製又は石英製のるつぼに入れ、5  
9 mol/L硫酸試液2 mLを加える。水浴上で加熱し、次に注意  
10 してパーナーで徐々に温度を上げて強熱した後、できれば電  
11 気炉に入れ、 $600 \pm 25^\circ\text{C}$ で強熱し、残留物を完全に灰化する。  
12 冷後、1 mol/L硫酸試液数滴を加え、再び同様に加熱及び強  
13 熱する。冷後、炭酸アンモニウム試液数滴を加え、蒸発乾固  
14 した後、更に同様に強熱する。冷後、残留物を水50 mLに溶  
15 かし、かき混ぜる。この液2 mLにヘキサヒドロキソアンチ  
16 モン(V)酸カリウム試液4 mLを加えるとき、白色の結晶性  
17 の沈殿を生じる。必要ならば、ガラス棒で試験管の内壁をこ  
18 する。
- 19 (3) 本品の水溶液(1→10)につき、塩酸を加えて酸性とし、  
20 20分間煮沸するとき、沈殿を生じない。この液に塩化バリ  
21 ウム試液を加えるとき、白色の沈殿を生じる。
- 22  
23  
24